

振り返りシートまとめ

## 1. 都市基盤整備

### 【公園・緑地】

・既存の道路、公園の管理の徹底（枯れた松、植えたら植えっぱなしの景観をなくし、管理育てる。



公園、緑地、環境を一体化した**市民活動の組織化の推進と育成**（指定管理者制度の導入、高齢者団体活動の管理）

・子供達に魅力ある公園づくりの推進

・羽咋市における公園数及び面積は充分と思う、なぜなら現在の公園管理は充分と言えない、管理不十分の公園は景観上みにくい、**現在ある公園をもっとしっかり管理すべき。**

なお、景観管理（河川敷、堤防、耕作放棄地等）について**民間ボランティア組織を活用し、草刈り隊の結成や市内一斉美化日の設定等行政が主体**となって、環境の美しい（心の美しい）郷土づくりをし、よそからお越しの方々になんと美しい、すばらしい町だと印象づけるまちづくりが基本ではないか。

・現在ある公園の活用を考えて行く。市民が集い**3世代が交流して楽しめる公園、もっとイベントや商業、観光に生かしたスポットに利活用**していけば、市の財産として価値あるものになると思います。

羽咋市の公園、緑地計画は残念ながら方向性が全く見えない。自然災害時に避難場所にも指定されている市内の公園は、施策の中には安全で快適な公園整備（バリアフリー化の推進）となっているが、**どのような方法で点検・チェックしている**

**のが見えない、町会長立ち合いで行ってほしい。**

街中の公園は、ブランコ等簡単な遊具があれば十分であり、他のスペースは芝を張り、**子供たちが走り回れるようにし、キャッチボール、バトミントン等出来るスペースを設けてほしい。**そうすることにより、自然災害時の一次避難場所としての役割も十分果たせると思う。

審議会の中にも話題のあった「市内には親子で行きたくなる公園が無い」の意見は、公園と遊園地の違いをはっきりさせることにより解決出来る、公園は公園であり、遊園地との違いはあっていいと思う。

委員会の中で話したように、「**今浜から千里浜の海岸は車で通行でき、羽咋川から一ノ宮の鳥居前までの海岸は馬やロバに乗り、滝港にはヨットに乗る事が出来、更には、柴垣には天然のカキ等のオーナー養殖を行える海浜公園を目指してほしい。**」勿論、自転車道路を整備し、自転車、馬車に乗って素晴らしい日本海の夕日を眺める青写真を是非描いてほしい。

・眉上山、又は、飯山地区で四季を通じた広大な果樹栽培園(サクランボ、イチゴ、モモ、梅、栗園等)を造り、県内外からの観光客の誘致を図る。  
(農業経験者等の就業拡大にも繋がる。)

最近では公園で遊んでいる子どもの姿をあまり見かけることがありません。室内での遊びが多くなっている傾向があります。子どもたちはもっと外に出て自分で考え行動し、自然の中で学ぶことを本当は望んでいると思います。しかし公園の遊具は何か事故が起きるとすぐに危険だからと撤去されてしまいます。またその公園の維持管理の仕方も難しいようです。

そこで**羽咋市内にある公園を魅力ある公園にし、子どもたちが元気にあそぶ姿や声が外に響く町が生き生きとした羽咋市になっていくことだと考えます。**そのため、特色ある公園づくりを行い、利用目的に合わせて選択することができるように環境を整え整備することが大切と考えます。

たとえば

1. **自然体験学習できる公園(丸太・ぶらんこ・シーソーなど自然物を利用して作った遊具の設置)ピオトープ・蛍の観察・食農体験できる公園**
2. **仲間づくりを楽しむ公園・コミュニティの場(バーベキューコーナー・イベント広場があり催し物や即売ができる)**
3. **身近な場所にあり誰でも屋外での遊びや集団での活動ができる公園**

公園づくりは市民と行政の協働で進めることが望ましいと思いますが、主になる維持管理者が管理をすることが**安全と衛生面でも細かく管理**され市民が気持ちよく集える公園になると思います。

一つの公園・緑地に花を植え、遊具を備えアズマ屋を設け、三世代交流の場にしようと思ひ、それを実現しようとする時、気が遠くなる。どれだけの課が絡むのか？この垣根を取るべく**コーディネートしてくれる相談窓口を設置**して欲しい。従来のタライ回しはごめんです。

公園は維持の点で負担がかかるもの。羽咋は**自然豊かな町、公園に拘わらず子供達の年齢にそった場所を選び(保護者)足を運んで楽しんで**はどうか。行政でマップ作りを検討して欲しい。

内灘や七尾市のような**若い世代の子ども連れの家族が集まるコトができる公園**を整備すればどうか。郊外で駐車スペースが確保できる場所であれば学校のあと地で充分。

羽咋市には多くの公園があり、観光資源としての活用も考えられる。**もっと施設を充実させて特長を出して、県外から林間学校や臨海学校など来てもらえるようにアピールして他県の行政と連携して進めてはどうか。**昆虫採集、山菜採り、魚釣り、地引網、魚つかみなどいくらかでも考えられる。夏蛸やサンショウウオなどの目玉もある。企画力が不足しているように思う。

市民の憩いの場としての公園・緑地の活用も不十分。公園なのか空き地なのかわからないところもある。**公園整備のマスタープランを市民参加で描いてもっとPRすべき。**すべては無理なので整備すべき公園を絞ってもよいと思う。

農村公園は魅力的である。うまく活用して珠洲市のように**スローライフ、田舎生活をアピールすれば老後の転入者を呼び込めると**思う。

農村公園と住宅、医療、コミュニティなどを組み合わせた、定年後のスローライフを満喫できる地域を都市計画の中で誘致して行ってはどうか。

## 【交通環境】

交通量も少ない羽咋で**これ以上の道路建設は必要ない**のではと思う。

市内には狭い道も多いが慣れ親しんだ道で、これも由しと思うが、災害の折は心配でもあり、見直すべきかもしれない。

新しい道路づくりより、歩行者や自転車が安全に安心して通行出来る道路改修・整備を実施する。

① 歩道の整備

② 街灯の整備

③ 道路脇の空き地は雑草を生やさないで、花を植えるなどして景観に配慮する

・福祉バスの運行を再度検討し、**本当に必要とされる時刻表に組み替えないとるんるんバスが活かされていない現状**である。今の利用されていないバスでは、ただ福祉のことをやっていますというだけで、真の高齢者に対する福祉ではない！

都市計画と連動しており、**159号、415号バイパスの完成を目指すと共に、的場飯山線の整備は推進しても、在れば良い広域農道等は現時点では作る必要はない。**的場跨線橋の様な無駄なものは二度と造らないでほしい。

(いずれか廃線になるのではないかとされている七尾線に陸橋を造らずに、「救急車が羽咋病院へ向かう途中に列車が来れば救急車が通れない。」等との理由は全くナンセンスであり、これは、他の方法、例えば羽咋駅、又は、列車と救急車の間を無線電話で連絡をとり列車の通過時間の調整をとることにより十分対処できると思われる。)

・地区懇談会で関心度が高い「地域循環バス事業」について再提言します!!

・目的は先日にも述べた様に、公共路線の廃止後の地域を、高齢者をはじめ交通弱者の外出支援の為、既存の民間事業者を圧迫する事なき、空白地帯を運行する使命があります。

只今、運行ルートや形態については、一部を除き「隔日」運航であり、大半は「一便運行」の利便性や快適に欠けている為、利用者は年共に減少しているのが、実態であります。

これからますますに必要と思う、この事業の改善策として、次の項目を提言します。

・項目<委託先とは相互慎重に折衝と協議>

- 1) 車両=2両から3両に 1両増車
- 2) 運行形態=各ルート共に毎日運行
- 3) ダイヤ本数=各ルート共 2本~最大3便
- 4) バス利用料金=100円から=200円にアップ
- 5) 他いろいろ=委託先と利便性や条件などを取り入れ、ダイヤ編成で使命を達

成してほしい。

・特例として=今後はこの事業を展開する中、**デマンド・バス(タクシー)の運行**が、特殊な山間地域を中心に「るんるんバス」設定が不可能区域を補完する意味で必要ではないか。

<まとめとして>

「るんるんバス」充実に対する件には、すべて事業費の増加が見込まれますので、市では車両購入や設備費がかさみますが、一方委託先等へは「委託料の見直しや、ダイヤ設定面や形態系統については、「月～金運行は、上記に述べた本数とし、土・日・祝には（各）ルート共に、2両出庫にて、ダイヤ本数も昼間帯のみ（10：00～15：00）に一便だけの減便運行とし、運用事業費の抑制を願う次第です。

能登半島は交通量が少ないわりに道路が充実していると思う。羽咋市でもまだ多くの整備計画があるようだが、**これ以上費用をかけて整備する必要はない**のではないか。観光など他の事業に予算を回すべきだろう。

市街地の特に新しい道路が暗い。夏場は木陰がなく日差しが暑いので、街の景観上も、もっと**街路樹や照明を増やした方が**良いのではないか。

## 【住宅】

・民間活力を生かした「**高齢者向け集合住宅及び有料老人ホームの充実と推進(空家の活用・助成の導入)**

雇用促進住宅の取得は間違っていたと思う、古住宅の今後の維持管理費の事を思うと、現在居住している人に、例えば、羽咋市で居住する場合に限り、**今後5年間位の住宅補助手当を支給する等の対処で充分**だったと思われる。

核家族化が進む中、子育てに関しては同居家族が多いと協力し合うことができ、子育てに関する負担が軽減されることは言うまでもありません。若い夫婦で地域との関わりも少なく子育てや家庭での問題に悩む親が増えてきています。そこで同居は難しいが二世帯住宅ならばと考える定住促進を図るため、羽咋市で**二世帯住宅には助成金を交付する事業**などがあると希望者が増え羽咋市に定住する人が増えることも考えられると思います。

老朽化した市営住宅の新築や市有地を活用して、**若者向けの魅力ある住宅を格安価格で提供**し、人口の増加を図るべき。

親としての希望は雇用さえあれば長男は地元に残って欲しい。その為にも公的住宅を取り壊した土地を**二世帯住宅を公営で建てるとか、格安で分譲する**とかを考慮して欲しい。

### 【都市計画】

**都市計画図を市役所の玄関に張り付ける**等市民がいつでも見えるようにしてほしい。（発表する前に、ある市会議員の関係者等が買い占めている等の噂が飛び交う事の無いよう対策を打ってほしい、今の中学校の立地予定地周辺も同じ様な噂がもう出ている。）

都市計画としては近年、**中心地が石野町近辺に移っているコトから、そこを中心として考えるべき**、行政の中心と商業の中心が一緒である必要はない

### 【下水道】

受益者負担を原則とする、しかし下水道料金収入では事業運営はむずかしいと考える

提案－現在までに投資した分で側溝・舗装復旧等道路改修費用で行うべき部分と純粹に下水道施設部分とを厳格に仕分けし、仕分けの結果一般会計で負担すべき金額を決定公表し必ず市の一般会計で負担させる。残りは、受益者で負担する。決算は必ず市広報で詳細に報告し、一般市民の考えを聞く場を設ける。

公共事業として下水道工事をやっただけでは税金の無駄使いにすぎない。真の環境問題に取り組む（河川の水質汚染やゴミ問題）ことにならない。今後、下水道の稼働率を上げるべく施策を考えるべきです。

・下水道管の未接続家庭解消対策を進めてほしい。

下水道の整備もとのい、水質も改善され喜ばしいこと。それなのに接続率が上がらないとはとても残念。行政で知恵を出し（高齢者への助成、合併浄化槽）

努力して頂きたい。

下水道に関してせっかく敷設したのに利用されないのであれば意味がない  
高齢者世帯、年金世帯など助成を多くし、利用を促進すべき

下水道に関しては、加入率の増加の為に工事費用のさらなる補助等を行わない  
と中々進まないと思われる。現在の経済状態では個人負担が重く押し掛かっ  
ていると思われる。

河川の浄化等、環境を考えれば今後数年間で 95%以上を達成しなければ、初期  
に投資した下水道管の方が先に老朽化してしまう恐れがあります。よって補助  
金や複数年に渡る分割払いを考える等、何らかの後押しを早期にしなければな  
らないと思います。

### 【上水道】

事業全てを民間委託することは市民の安全安心な水の供給に支障をきたす恐れ  
があるので実施してほしくない。しかし、**経費が節減出来る部分の管理委託につ  
いてはおおいに実施すべき**、(民間、官庁を問わず退職された、水道事業経験者に  
力を貸してもらうことも一考しては)

**災害時対応一大震災にそなえ、断水しても配管の途中に大口径管を配し、その  
部分に貯留した水を付近民が利用する、このようなシステム**をこの十年間で実施し、  
住民が安全に安心してすごせる、まちづくりを提案する。

上水に関しては経費削減を進めて行くのはもちろんですが、民間営利業者に**全て  
委託するのは、非常に危険**ですので一部の機関のみとする方が良いと思います。

### 【上下水道共通】

良質で、かつ安価な上・下水道料金を願うのみです、**民間への委託は慎重**  
に進めてほしい。

**行政と新しく変容した町会(名称は新しく考えるべき)が中心**となって上下水道一体  
にして半強制的に進める取り決めをつくるべきである。

## 【その他】

都市基盤関係は福祉関係、生活環境関係と同じく、原因者と行政サービスの受益者が同一であるだけに、コミュニティとしての取り組みが必要不可欠だ。各項目毎に行政とコミュニティの協働の仕組みづくりがポイントで、特に町会を中心とした既存の地縁組織を新しい時代のニーズを取り入れた新たなコミュニティの主役として変容させるため、行政が主導で専門プロジェクトを立ち上げて取り組むべきだ。

今後前半5年間、時代ニーズに合った地域社会の新しいコミュニティ・インフラを創ることに専念すべきだ。強く提言したい。行政は勇気をもって下さい。

羽咋市の発展の仕方を見ていると日本全国で同じような現象が起こっていると思います。

戦後復旧した中心都市部の再生をしなければならなかったが、バブル時代に土地が高騰した為、郊外へ都市機能を拡大していく事となった。市民の殆どに車がある為、広い駐車場と最新の設備を要した施設が求められ郊外へどんどん広がっていった。しかし時代は変わってきているように思います。バブル時代の大量生産大量消費時代は終わり、時代は小生産小消費の時代へ移り変わって来ていると思います。エネルギー効率の観点で言うと都市機能が広がっているより集約している方が高効率です。生産・販売・消費のサイクルを都市中心部に呼び戻す政策が必要だと思います。現在の都市中心部は、都市の新陳代謝が進まず過疎化している現状であり、空き地が目立つ歯抜け状態になっています。

行政機関・商業地・住宅街と、徒歩程度で生産・販売・消費のサイクルが出来るのが、本当はエネルギー効率的にも一番良いのである。よってこれ以上郊外へ都市機能を広げず密集する事によって相乗効果が表れるように都市計画を計画していく必要があると思います。

### 具体的施策

1. 中心地への商業施設誘致  
補助金等により中心部へ誘導（マルシェ跡地を市営の駐車場にして 中心地へ人を呼び込む）
2. 中心地の空き家や空き店舗を若くてやる気のある経営者へ安く賃貸をする等の補助金等の活用による誘導
3. 空き古民家や空き店舗を取り壊し、駐車場等に整備を促す。  
そのうち、駐車場を店舗に変更する動きが必ず現れます
4. 石油の時代から自然エネルギーへのシフトを意識した都市再生  
太陽光発電や風力発電を一般市民に普及するよう後押し、石油を輸入し



ないで済む為、食品の地産地消や、消耗品を地元で出来るだけ生産できるように促す（代替品を作成）

5. 徒歩や自転車で買い物、又は職場が行ける商業圏の確立

6. 機械による自動化を推進したまちづくり

（少子高齢化になる為、人間のしていた仕事を出来るだけ機械にさせていくように投資していくまたは、誘導していくそれによって市内の生産性を保って行く）

## 2. 産業関係

### 【工業】

企業誘致を行うに当たって、まず企業の場に立って羽咋市を見た場合は、  
残念ながら「物を造っても運送する道路が無い、港が無い、鉄道は期待出来ない」  
**このような現状を打破**しない限り無理だと思う。土地の提供、税金の優遇等だけでは企業は羽咋に進出しないと思われるので、既存の企業の育成に力を入れてほしい。アンテナを高くして、景気が良くなる時期が来るのを待つのが現状ではやむを得ないと思います。

市長直轄の行政と市民参加の**企業誘致プロジェクトチームを早急に編成**し、各種の分野で雇用促進を図り、若者が羽咋市に就職できる環境を醸成する。

**能登自動車道の無料化や列車の利便性向上をうまくアピールして企業誘致につなげ**られないか。羽咋ならではの産業・工業は何か。ベアリングや鍛造技術は進んでいる。原発と提携してもっと電力料金を安くできれば大きなメリットになる。企業誘致や雇用促進のための助成金の充実も必要だろう。

### 【商業】

消費人口を増やす施策と羽咋にしかない**二本の国道を最大限利用して石野町周辺の商業地域の活性化を図り、既存のスーパー等に対する支援策**を進めてほしい。

(159号、415号バイパスの早期完成の推進してほしい)

年中無休の「**みちのえき**」を**既存の施設・跡地等を利用して開設**。  
市内のお店に場所を提供し、羽咋市の観光案内、市内の菓子店、お土産店（海・山・里もの）等が揃っている場とする。

## 【観光】

滝ロードパーク付近から見渡す景観・特に日本海に沈む夕日はすばらしい!

おいしいかな、米の耕作地と耕作放棄地が混在し、まことに見苦しい状況となっているのは残念でしかたない。あれだけの土地全体を花畑にすれば、日本の一の景観地となる。

提案

- ①地権者に協力していただき、耕作地とそれ以外の土地を区分する。
- ②日本全国に向け「働き隊」「草刈隊」等の隊員を募集する。
- ③青写真（景観地のレイアウト）は、隊員相互の意見を採り入れて実施。

アイデア例

・世界一長いか短いベンチ      ・地元物産販売      海（水産）・山（林業）・里（農業）

- ・恋人の聖地……      ・……の迷路
- ・ラバ牧場で“夕日” と“ラバ” と“貴方” のショット
- ・気多大社“幸姫” とツーショット
- ・大社焼き夫婦茶碗作りに挑戦

等、話題性を持たせた景観地作りを実施してはどうか、初期投資の費用は、行政1/2、一口株主1/2負担で起業する。

これを実施に移すには、単課での事業実施は困難と思われる。二・三年前にあった産業観光課なら実施可能であったろう、現在の課の構成であれば**農林水産課かまたは、商工観光課にプロジェクト室等設け実施に移していけばどうか、羽咋市で現在進行中の山彦・海彦計画の海彦計画の核として実施**していただければ幸いです。

・県内で**最も歴史のある観光資源(妙成寺、気多大社、羽咋神社、永光寺等)が多くあり**、前記の四者と商工観光課、商工会が中心となり、「羽咋の素晴らしい歴史」と「千里浜」をPRしてほしい。(歴史文化の項と内容ダブリ)

**羽咋版はとバス観光**を企画する

史跡めぐり（妙成寺・豊財院・寺家遺跡等）と、海、山、里等の経験が出来る内容を織りまぜる。一泊から二泊のコースで、滞在・滞留型観光を企画し、ホームページ等でコマースシャルをする。

例

海・・・素潜りでカキ貝とり、たこつり、磯釣り等体験  
里・・・田植え、稲刈り、大根、スイカ取り等の体験

山・・・シイタケ作り、炭焼き等の体験

①観光・農業について

- ・観光ボランティアの育成強化と推進
- ・観光と農業を活かした体験型（民宿、永光寺、妙成寺、青少年交流の家）合宿の推進（地元、県内、県外の保育所年長、小学生、中学生）



- ・夕日を見る地引きアミ、田植、稲刈り、炭焼き、座禅、エコ学習
- ・観光会議の開催
- ・羽咋検定の実施

観光にもう少し積極的に力を入れてみてはどうか。

自転車道路でのグリーンツーリズム

田舎体験型のスローワークなど既存の宿泊施設もあり海浜道路の無料化も近い。新しいものでなく今までを再検討すればアイデアも生まれるのでは。

ネットやロコミの時代、イベントをリンクさせながら**商と農、水、コラボ**で頑張っ  
て頂きたい。

・当市に於いては、観光客等の交流人口の拡大と誘致等は第一目標であります。市内には、神社、寺院と海や山間には観光を目的とする豊富な環境に恵まれており、その貴重な資源を行政は、市民の協力・アイデアを求めながら発掘する  
必要があります。

・今回は、以前までの誘致策そのものを見直しと再構築を求める一方、千里浜海岸等を中心とし近隣の町、自治体とも連携しながら、宿泊施設の充実等々単なる素通りする観光地や工程途上という、ハンディを克服し、施策としていかに長期間とどまっていただけのかは第一のポイントであると思う。

・4年後に控える、北陸新幹線の開業と在来線七尾線との相乗効果を期待すると共に、現在の取り組みの中の山彦、海彦計画にも織り込んである、知名度ある商品を最重点に農水産物などなど、**当市が発信する目玉お土産の開発を民間企業とタイアップし実現**してほしいと思います。

・現在、当市に現有するいくつかの文化遺産財、名所地に存在する「名称」、「名板」、「観光案内図」、「他休憩所」、「便所」等々が字そのものが、こすれ消えている所が、数多くあります。来羽する観光客又はビジネス客にも印象が悪く  
思われます。財政厳しい折、修繕復は最低限度を捻出しながら、**足元から整備し  
全国へ観光パンフを発信すべく、大切な今後の事業**と思います。

広域農道など素晴らしい道路がいっぱいあって2輪のツーリングのメッカとしてバイカーも多い。羽咋は奥能登、氷見、富山、金沢方面への分岐位置にあり交通の要所である。農産物も海産物もたいへんおいしく充実している。**ブランドを確立して、道の駅や物産館を充実させて観光に活用すれば活性化**できる。七尾や氷見の市場は賑わっている

羽咋は特急も止まる。関西からの直通特急も増えた。**北陸新幹線が開通すれば能登を訪れる観光客も増える。もう少し駅周辺を観光整備して充実すれば活性化**できる。コスモアイルを改装して大規模物産館にしてはどうか。

羽咋産のブランド力を高めるための、品種改良や高品質化への取り組み、農業集約化や生産性の向上に対する行政の支援が不可欠と考える。世界的な人口増加の中で食料自給率の日本にとって、近い将来、農業政策の転換と強化に舵が取られるだろう。その中でいち早く対応し、**能登のブランド力を高めるとともに、周辺の豊かな自然をいかした観光産業により地域の活性化に取り組んでいくべき**ではないだろうか。

**スポーツイベントやレクリエーションイベントなど特徴のあるものを継続的に行えば観光資源になりうる。**ジェットスキーやビーチバレー大会などもっと規模を大きくして行政もPR活動などバックアップして盛り上げるべきと思う。

千里浜の観光資源としての活用をもっとはかるべきだろう。乗馬もおもしろい。夏の海水浴客も工夫すればもっと集客できると思う。

## 【農業】

羽咋が課題に取り組んでいたオンリーワンの1.5次産業室を復活し、発展させるべきだ。強く提言したい。

## 【林業】

## 【水産業】

### 【農業、林業、水産業共通】

・観光とともに羽咋の生きる道は、「農業、林業、水産業」であると思うので、**地の利を利用した一次産業を発展**させるため、是非、国に提案してほしいことは、外国にある「徴兵制」のような「ある年齢に達したら、農業、林業、水産業に一定期間従事する事を義務付ける「徴農制度(仮名)」を羽咋から発信し、失業率増大の緩和、食料自給率の改善を図る制度」を提案してほしい。

ただ、羽咋でそれに似たようなことが出来るなら是非行ってほしい。それまでは、現状の施策を推進することだと思います。

## 【労働】

### 【その他】

羽咋市のエンジンが動いていない。

どこの課も他人事で、自分の課が羽咋市のエンジンである自覚がないので大きく二つの分野に分けて取り組んではどうか。

一つはこれからの羽咋を引っ張り、押し上げるポテンシャルのある観光分野とその関連産業。

観光分野は他の産業に比べて横断的な要素があり、リーディング産業として他産業を牽引する力がある。

商業、農業、林業、水産業等はその関連産業としてエンジンに火がつき、活性化するだろう。

もう一つは地域社会のベーシック産業として取り組んでいく。工業はこの分野で労働は二つの分野にまたがる。

とにかく縦割りの課としてではなく、大きく分けた二つの分野のそれぞれの目

的をもった専門のプロジェクトチームとして複眼的な取り組みをするような新しい組織のあり方を真剣に検討すべきだ。

提言したい。

・羽咋市が今後 10 年間に於いて何に力を入れていくかが課題であり、少しでも人口増加につながる明るい展望がみられるのは、観光と商業ではないかと考えます。本市は金沢に次ぐ文化財保有をしながら、全国発信していない。

妙成寺を国宝にする努力、永光寺を永平寺や総持寺級にアピールするなど、歴史と文化の誇る羽咋市だからこそ、滞在型観光地としてまちづくり（町並）を考えて、特産物加工品など（農産物、林業の木工品、水産物）を商業として道の駅で購買力を高めて行くといいのではないか。

商工農林水のこの 5 分野は地道ながら、これからの羽咋を担ってゆくであろう。官民の専門家集い、プロジェクトチームを立ち上げて深い議論を重ねて欲しい。期待します。

### 3. 教育

#### 【歴史文化】

- ・小学生の郷土教育として羽咋地名由来にかかわり深い**羽咋の法事について夏休み期間にでもマイクロバスを使い現地に足を運ぶ**。郷土愛の一環にならないか。
- ・郷土の文化遺産めぐりにより、**歴史文化遺産に関する教育を各小学校・中学校等で足を運び**、実際に体感する機会を教育委員会で指導して貰い郷土愛を育成すべきである。
- ・県内で最も歴史のある町の史跡の保存を早急に進めるとともに、その**史跡を点ではなく線で繋ぐことと、説明員(観光ボランティア等)の育成**が急務であり、羽咋市独自の支援制度を設けてほしい
- ・**歴史文化を次世代を担う子ども達にもっと知らせる**（羽咋検定、邑知検定）ふるさとに誇りをもった子どもを育てる。

#### 【市民文化】

- ・羽咋市が 10 年後どの分野に力を入れればよいかのアンケートでは生涯学習、文化、スポーツ振興は最下位に近い所にいる。  
生活環境が整って始めて文化とか芸術があり、心の潤いの中に存在するとても弱いものです。羽咋文化協会も高齢化会員の減少が各団体の悩みである。10 年後を語る事が出来ぬ状況です。細々でも継続することで先の明るさを見つめたく、文化祭等、市の支援（助成等）を願いたい。  
（文化祭等、市職員も積極的参加（鑑賞だけでも）を期待する
- ・**文化協会と十分に連携をとり、若い人の育成を図る**項目を入れてほしい。

#### 【学校教育】

- ・羽咋市の地域性を取り入れた教育をするため、**教育者ではないアクティブ・シニアを積極的に登用する条例**をつくるべきだ。  
提言したい。
- ・学校給食は地産地消を基本として、更に「自分で生きる力」を育む意味でも



各学校でもっと「**食育**（食物をバランスよく食べるためのさまざまな知識を身につけること等）」を勧めてほしい。

・生徒数が少なくなることが即「学校の統合」は短絡的な考えであり、少数である事が将来の**良好な人間関係を構築出来る**こともあることを理解する必要がある。

・**統合後の考えられる問題点を列記し、その対策を解決してから統合校を建設すべき**である。（冬季の夕暮れは早くなり、通学路の確保、部活終了後は暗くなる時間となり、自転車での通学者対策（路面凍結、変質者対策等）、莫大な費用がかかる。）等

・統合中学校に400m**公認グラウンドの造成**を早急に決める。

学校教育（体育・学校行事、部活動）と生涯体育スポーツの効果的な共用  
全天候型400m公認陸上競技場

今後国内工場は、海外工場や他の国内工場との競争に勝っていかなばならない。羽咋は従業員の改善意欲が高く団結力がある。工場の風土もあるだろうが地域性もある。**教育の現場と企業や産業との触れ合いを高めて創意工夫にあふれた人材育成**を進めて行ってほしい。

**毎年羽咋工業の企業実習を受け入れているが大変真面目で熱心である。小中学生の職場見学や企業からの出張授業も行っている。このような活動を充実させていくことも地元への就職を促す効果があると思う。**

### 【幼稚園教育】

羽咋市としての**幼保合体**（幼稚園と保育所の統合）の進め方を煮詰めること。

幼児を持ち、働いているママさんは、**近所で保育士等の資格を持っているシニア層のおばちゃん保育で充分**と思っているのではないのでしょうか、一考を願います。

### 【地域教育】

子供会の位置づけがボンヤリしてきたのではないのでしょうか、父兄は行事があるときにその行事を消化するだけに力を入れているように見えるのは私だけではないのでしょうか、特に、夏休みのラジオ体操を傍で見ていると「腹が立つくらいだ

らしい体操」と見えるのは私だけでしょうか。思い切って父兄とシニア層による「おせっかい隊」の設立等地域全体での子供の育成を図るとともに、各地域で行っている「公園の清掃活動への積極参加」、また「わが町のゴミゼロ作戦」等を行い、親子・シニアでボランティア活動を実施することにより地域教育が出来るのではないのでしょうか。

## 【コミュニティ施設】

### 【生涯学習】

・各公民館は、特色を持ったものとし、「地区」にこだわらず誰でもが好きな講座・教室に参加できるようにして各**公民館の横のつながりを太くする**。公民館の館長も羽咋公民館を本所として、他は分館として運営をする。本所の館長は生涯学習課の課長が兼務、主事は市職員とし、分館には臨時の主事 1 名を配置して兼務の簡素化と経費の節減を図る。

・公園が屋外のコミュニティの場であれば、公民館は屋内のコミュニティの場であると考えられます。**誰でもがいつでも利用できる活気のある公民館**をつくりだしていく。

そのためには**公民館の存在が地域住民の集いの中心となり、地域の情報提供の場になり、活動の拠点となるよう運営内容の検討**なども必要と考えます。子どもからお年寄りまで地域の方々が集う場となる存在感が求められていると思います。これから若い世代が公民館を活用することを考えると**土日の開放**が必要と考えられます。

・本来は市民と密接な関係のある項目であるが、具体的な本来の姿が見えず、理解がされていないので PR を十分行う必要がある。

### 【スポーツ・レクリエーション】

・一つの独立した課として地域社会と学校教育を結ぶ役割を担うべきだ。それ程重要だと思う。

・羽咋は、近歴史的にもスポーツが盛んであり、かつ、強い地域であった。停滞している街を興すには**スポーツ担当課を設置する**等スポーツに力を入れスポーツで街興し方策を求める。

今の羽咋市の屋外のスポーツ施設は、野球場等に見られるように中途半端な施設ばかりであり、特に、小学生の陸上競技会は、志賀町で行っている等、施設設置時の責任者に責任を取ってほしいくらいである。高校野球、ラグビー、サッカー等に見られる様な町が一丸となれる町を目指しましょう。

- (1) 体育係職員を3名配置する  
事務担当、スポーツイベント、施設管理整備
- (2) 羽咋市体育振興事業団の見直しを早急に実施する  
職員数、地位、給料、業務内容
- (3) 総合型地域スポーツクラブ「バモスはくい」の充実
  - ・クラブマネージャーの育成
  - ・クラブハウス（活動拠点施設）を羽咋体育館にする。
  - ・クラブ専門職員の配置
- (4) 統合中学校に公認グラウンドを造成する。（早急に決める）
  - ・スポーツ、レクリエーションと学校教育（体育、部活動等）の効果的な活用
  - ・全天候型 400m公認陸上競技場
- (5) 羽咋市体育協会の育成
  - ・専門職員の配置（1名）

**スポーツ振興策も必要**。羽咋が得意な力を入れているスポーツへの取り組み・インフラ整備をさらに充実させ強化することで地域の活性化につながると思う。

## 【その他】

・教育関係は国の施策が強く反映している分野だけに地方の実体と課題から遊離し易い面があると思う。

今後は変容する地域社会に応じて町会及びその他地縁組織の変革を検討すると共に地域社会の活性化を意図して地域独自の理念づくりを進め、その運用については国の施策との整合性を考慮する独自の基本方針をつくべきだ。

・縦割り行政を排し、受益者サービスを第一に行政の組織とコミュニティの協

働の仕組みをつくり上げるべきだ。

そのための専門プロジェクトを立ち上げ、今後 3 年間でその方向性と施策プランを練り上げたらどうか。

・言い方に問題があるかもしれないが、幼年期～義務教育世代、高齢者世代はイヤでも地域社会とのつながりがある。地元離れが進む青年層にもう少し力を入れるべきではないか。

・ユーフォリアの利用者が少ないのは施設ではなく、人の問題

それはパートの方や従業員ではなく管理者の問題！！

指定管理になってサービスが向上したとは思えない

もっとシオンを見習って教育すべき

・学校教育と地域教育が一体とする教育行政について再提言します！

・地域（コミュニティも含む）教育と学校教育とは、現代社会に於いては相互連携しながら教育行政が総括を行う事は基本的な条件であります。

最近の教育環境は、親のモラルの低下や、一部心なき教育者の不失態等々、学校教育に対する多くの不信感が漂っております。

・従来からは、家庭と学校と行政機関が主体となって経過しているが、今後は児童生徒（義務教育）教育は、課外授業をはじめとする地域一体がコミュニティを含む絶大なる支援が必要と思われます。

・次世代間交流事業などを推進し、保護者と地域住民が児童生徒の学習や子育て・子供達の地域生活面をサポートする学習見守り隊を組織化する一方、花・野菜作りやクラブ放課後の指導を兼ねながらフォローする事が最も大切と思われます。

・まとめに今後は益々に少子化が進展致します。従来よりの家庭、学校、教育行政にプラス、地域教育を加える事により四位一体でより一層の調和が取れた教育の環境が整備されると思ひます。

又、将来を託する子供達の為、教育の柱であるべき当市に於ける健全な子供条例の見直し整備を行い、その取組みや推進に全力を傾注してほしいと思ひます。

・今後 10 年間では、シニア層のパワーを活用すべき、地域教育、コミュニティ施設の核として公民館の活用を期待したい。

学びたい、教えたい、地域力を利用して元気な老人を生かし、ひいては介護予防につながり、互いに生き生きと暮らせる羽咋市になっていくと思う。

・生きる力。命を育む 3 世代交流学習の推進

・幼少時からの環境学習の推進（継続したエコ学習の推進）

保育所—幼稚園—小—中—高

・生涯学習をとり込む「地域教育、歴史、文化、スポーツ、コミュニティ」組織の見直しとネットワークづくり



主管課、各指定管理者制度受託事業者との連携強化、体育振興事業団の存在意義、市民活動支援センターの存在意義

・永光寺、妙成寺での禅通学学習の推進と強化

・戦後世代が中心となってきた近年、現代は物質的には豊かになりました。しかしその反面、精神的には益々、貧しくなっているように感じています。そして羽咋市内ではありませんが、日本全国の雰囲気を見ても、人と人との繋がり希薄さを多く感じます。

かつて、田舎町であった人は多くいたし活気があった羽咋市ですが、時代の流れと共に大事な物を失っていった為に活力が失われていったのではないかと自分は思います。

その大きな原因はなにか？自分なりに分析すると

- 1・戦後世代の行き過ぎた個人主義の広まり
- 2・お金こそが正義という拝金主義の広まり
- 3・郷土愛や愛国心を失った日本人
- 4・道徳心を失った日本人

西洋支配が本格的に入ってきた戦後、西洋の基準に合わせていった為に日本そのものの考え方や価値観が失われていった事が考えられるように思います。

資本主義の中で活動する我々は自然と最初に損得勘定で判断するように思考回路がなってしまったと思います。その判断をする前にまず道徳心で善悪を判断すべきなのですが、その個人個人の価値観により判断基準がバラバラになっているように感じられます。

社会にとって有益か？個人にとって有益か？行き過ぎた資本主義の考えを一度見詰め直し、日本人の道徳観を復活させなければならないと思います。

羽咋市内には、能登では1番古く、格式のある古くからの神社・仏閣があります。羽咋の歴史を紐解くと精神文明が能登で一番高度に発達した証拠であると思います。そして、豊かな社会が元々あったのです。その状態を現代に合わせて、戻していけば良いのではないのでしょうか？

具体的施策

1. 老若男女の道徳心の推進（生涯に渡って人間とは何か？人生とは何かを探求する←こんな施設が羽咋には沢山ある！！）  
学校教育や生涯学習に組み込む  
市の無料講座等を開設し、生涯学習をする  
（現地僧侶や神官に宗教とは無関係で協力を依頼する）
2. 地域の「和」を取り戻す  
行き過ぎた個人主義の是正、公の精神を育む

(地域コミュニティを活性化させる、郷土愛・愛国心を育む教育)  
ボランティア参加を促し、地域で連帯する精神の育成  
・地域のお祭り 千里浜クリーン運動 地域のゴミ拾い等をとおして町内会活性化

### 3. 拝金主義の否定と、次世代の為に働く精神の醸成

「お金の為に働くのではなく、次世代に何かを残す為に働く」そんな精神を育む

現代人が忘れてしまった、公の精神を取り戻す。

私自身の世代では、お金持ちになる事が目的で育ったように思います。

「じゃあ、お金持ちになったら何をする？という自分の遊びの為に使うと言います。」こういった人々が多い現代では、永久に地域が豊かになる事はないように思います。次の世代の為にお金を使い働く、100年後の子孫の為にという考えが戦前にはありました。しかし現代人は利己主義の塊であるように思います。

これは現代人の老若男女共に一番教育するのは難しいが、この精神を身につけないと永遠に豊かになれないと思います。

教育は国家の根幹であり、地域の将来の生命線であると思います。

精神的な民度が低いと、どんなに素晴らしいシステムを導入しても機能しません。

また民主主義も市民の民度が低いと機能しません。市民が生涯に渡り学習して民度を上げていく必要があると思います。

日々、人々は色々な選択をし決定していきます、その決定する物差しが道徳心であると思います。人々の為になる物差しを羽咋市民は手に入れるべきだと思います。

## 4. まちづくり

### 【人権】

人間として当然守られるべきは人権です。**学校では人権に関する講演会や道徳の授業等、一般では総合相談、法律相談等**これからもきめ細やかに実施され、不幸な事件が起きないことを願う。

### 【男女共同参画】

羽咋市はまだまだ封建的な考えや慣習が根づよく残っていると感じます。社会的にこれまで同様に取り組み**意識改革が必要**に思います。

広島市長や大阪府知事の男性の育休に対する発言で世を賑わせているが、休暇をとれ易い環境を作ることはまだまだ先の事と思う。

**民より官の人達が先がけて実行**されてはどうだろうか。

子育てを共に女性の社会進出、少子化の為にも

・現状の活動で充分だと思いますが、各種施策が市民に理解されていないと思われるので、未だ現時点では、そこからのスタートと思われれます。

### 【交流】

言葉は交流の原点です。世界共通語の英語、隣の国同じ文化を持った中国。どの教室も参加者の人数が少くないか。

固定化された状態ではなかろうか。行政も関わってはいかがかと思う。

・日々刻々と変化する地域社会では、現代の若者達の多くは、人間関係等に感心度が少なく、周囲の希薄化で何事も同調するのみです。変改する実社会に対応出来ず、他者や囲いの環境へは感心を示す事を行いません。只今は厳しい世代でインターネット、IT 関係等を発信する一方、自分自身の生き方と自己の空想を堅持する傾向と思われれます。

・これら今後の当市に於いて国際に向けてのHP等々の整備が必要不可欠であり、国内外の状況把握を計りながら、今後は近い時期に重要視される国際観光交流拡大や誘致、海外技術研修他など発信する中国や北東アジア向けのHP整備を行う一方、5年、10年後を先取りする国際市場の開拓する事で、現実社会の若人達が対応し知識が習得出来る**国際交流(室)もしくは課の設置**を望みます。

藤岡市に行って学びました・・・ではなく、学んだコトを何に活用するのか。例えば岐阜県でも高山市だけではなく、各地で観光に向けたまちづくりが行われている。羽咋まつりと伝統の話があったが、去年、一昨年と100年続く飯山の山車を持ってきたり、千里浜も山車を出したりしている。伝統を取り入れたまつりを作ろうとしている中で、羽咋まつりはちょっと・・・というのは飯山壮年団団長として心から悲しい気持ちでした。

**神子原、太田の獅子舞、千里浜、羽咋地区のきやり(木遣り)など羽咋にも伝統のある芸能は数多くある。**

- ・姉妹都市等の交流は必要が無いとは言わないが、単なる親戚づきあいにならないように、**成果を残す時**ではないでしょうか。

### 【情報化】

- ・全町会長との連絡はメールで行う等の整備を図ること。
- ・町村との交流県内外の市には「**テレビ電話**」を活用する事により時間、人件費等の経費の削減に努めてほしい。（実態を知りませんので実施されておりましたらスママセン。）
- ・羽咋市のホームページにパブリックコメントとして、項目を絞った募集の案件の意見を言うことが出来るが、項目等はフリーとし、**年間を通じ、市民から提言を受け付け、ホームページで回答**することにしてほしい。

### 【その他】

- ・市民と行政の協働のまちづくりを進めるため
- ①現状取り組んでいる市民活動支援センターの全面委託（ひも付きでなく）を推し進め



②町会や公民館関係団体など地縁型組織を時代のニーズ（専門プロジェクトで検討）に合わせて変革し、名実ともに市民参加のまちづくりを総合計画の中核にすべきだ。強く提言したい。

- ・今一度多様化・高度化する広域的課題を抽出し、広域圏事務組合のあり方も含めて改めて新しい圏域振興整備計画を作成し、早急に実施すべきである。

現状のままでは羽咋市がとり残される危険がある。

- ・地位コミュニティの自主性や個性を重んじながら町会活動を時代のニーズに沿った内容に変え、改めて地域コミュニティの中核として行政との協働のまちづくりを強化推進すべきで、そのための専門プロジェクトを立ち上げるべきだ。強く提言したい。

- ・地方分権に対応する人材育成策を早急にまとめて実施すべきだ。

- ・総合計画のPointは人づくり、まちづくりだと思う。

- ・公民館を核として町会活動の強化推進

(町会)

- ・町づくり協議会の活性化と強化

- ・公民館の指定管理者制度の早期導入による地域特性を活かしたまちづくり、人づくりの推進

- ・まちづくりは、「ひとづくり」である。

「住んでいるまちを誇りに思う、よりよくしたいと思う心」・あいさつができる、・思いやりのある心をもつ等、常にこのまちに住むひとの心を初心に帰し、進んでまちづくりボランティア事業に参加する心を醸成するため、くりかえし、くりかえし講演会等の開催を実施していかなければならない。数十年前までは、結婚式や葬儀は自宅で行っていたその時には賄いを仕切る人、地域に起こっている情報を提供する人などおせっかいやきの方がいてコミュニティがうまくかみ合っていた。現在は便利さの影の部分としてコミュニティが欠落してきた。今、これを解決するに必要な事は、最小の自治区域である町会単位で「ひとづくり」に優れた講師を招き、講演・講習会を開催すべきと考える。

羽咋市の人口当たり職員人数は県内の他地域と比較しても少ない方である。しかし、今後人口が減少し高齢化が進むことの負担増や今後の活動の充実を考えると人数不足と感じる。一方では効率化も必要であり、その解決策として**周辺地域との市町村合併**は有効な策をなり得る。是非具体的な検討に入るべきと考える。

## 5. その他

第1回一地区懇談会の提言の中で取り上げて検討すべき事項

- ・若い人が住みたくなるような取組みをするべきではないか。
- ・せっかく大事に育てた子供たちが都会に出ていってしまうのが口惜しい
- ・少子高齢化に対して何かしなければという思いはあるが、やっていこうとすると決定打に欠けるので、誰がどういった形で進めていくかはっきり示してほしい。
- ・とにかく子供が生まれなければ意味がない。
- ・将来のまちづくりの基本方針のうち「元気と魅力のあるまちづくり」「市民参加と協働のまちづくりの推進」が重点項目だと思う。
- ・市民の意見・要望が反映されていない。
- ・市の行政に対し、市民に不信任をつきつけられているのに、淡々と説明できるのが分からない。
- ・公共料金の負担が日本トップクラスです。市民がじっと我慢しているのに危機意識がない。議員にもない。
- ・職員が減なのに議員の数も5人くらいにしたら。
- ・羽咋を魅力あるまちにするにはどうしたらいいか。20代、30代の意見が聞きたい。
- ・羽咋市の自主財源や国、県の補助金をしっかり市民に説明して理解されないと何も変わらないのでは、20代、30代の意見を具体的にどのように聞くのですか。
- ・人口減少、借金増額のなか、企業誘致など市の産業発展として何か考えているのか。魅力ある地域振興を考えてはどうか。
- ・定住人口を増やすための思い切った施策なども考えてほしい。
- ・協働のまちづくりをすすめるにあたり、市職員の意識が薄いのではないか。

提言事項

- ・総合計画の役割の確認

《住んで良かったと思えるまち

住んでいることを誇りに思える（賑わいのある）すばらしいまち》

を創るために、まちづくりの目標や施策のガイドラインを示すのが総合計画

- ① まちづくりの基本的方向を示すことにより、市民、地域が諸活動を行う際の指針となる。
- ② 市政運営にあたり、事業や施策を総合的・計画的に実施するための指針とな

る。

③ 国や県が策定する各種の計画あるいは施策に対し本市のまちづくりの基本方向との整合性のガイドライン

- ・羽咋の将来像（ビジョン）づくり（将来のフレームづくり）を最優先  
⇨（具体的な施策、アイデアでなく）  
↓ ↓  
行政 市民公募

キーワード

- ・新しい時代にゼロベースの発想で取り組む
- ・人づくり
- ・まちづくり
- ・理想の街イメージづくり（ぶれない理念づくり）

スローガン

- ・羽咋、変わらなければ・・・

- ・羽咋市の現状を市民に分かりやすく説明し、理解してもらう努力すべきだ。

↓

市民は現状の大変さを理解していない。理解させて対策を市民と一緒に考えるのが行政の責務

↓

分かりやすく

市の会計別歳出内訳＝自主財源

（歳入の種類別に） 補助金  
預金取り崩し  
借金